

第3回専門職大学基本構想策定委員会の開催結果について

1 日 時 令和元年9月9日（月） 14:00～16:00

2 委員会出席者

○会長 生源寺眞一（福島大学食農学類長）

○委員

今井敏（（独）農林漁業信用基金理事長）、牛尾陽子（（公財）東北活性化研究センターフェロー）、小沢亙（山形大学農学部教授）、嶋村和恵（早稲田大学商学学術院教授）、野堀嘉裕（山形大学名誉教授）、五十嵐一雄（山形県認定農業者協議会会長）、早坂和紀（早坂果樹園）、阿部多喜子（金山町森林組合森林施業プランナー）、遠田勝久（（有）遠田林産代表取締役）、佐藤睦浩（新庄神室産業高等学校校長）今田裕幸（山形県農業協同組合中央会常務理事）、阿部清（（公財）やまがた農業支援センター専務理事）

3 会議の概要

事務局から「専門職大学基本構想骨子（素案）」及び「第2回専門職大学基本構想策定委員会における意見に対する考え方」について資料により説明の上、意見交換を行った。

【主な意見】

○農林大学校との関係について

- ・農林大学校を存置して一体的に運営することについては、多様な学習ニーズに応じ、多様な学習ルートを確保することになり良いと思う。
- ・専門職大学と農林大学校の関係は、効率的な運営を考えると一体的に運営した方が良い。その際、農林大学校は老朽化が進み、そのまま使用していくのは危ないので、可能なら建て替えて、一つの建物の中に専門職大学と農林大学校を入れた方が経済的にも効率的で、事務部門の省力化、効率化を図ることなどができる。
- ・農林大学校が附属校となり、編入制度を設けるのであれば、専門職大学と農林大学校の学科構成の関係は基本構想の後でしっかりと考えた方が良い。
- ・農林大学校の附属学校化は良いことだと思う。専門職大学の設置に伴って、リニューアルして欲しい。
- ・農林大学校と専門職大学の教育方針はそれぞれにあるのだから、1，2年生で学ぶものがどう違うのか、3，4年生に進むとどうなるのか、受験生が分かるようにして欲しい。

○定員について

- ・定員について、専門職大学と農林大学校とを合わせ、その規模を検討するのは良いが、切磋琢磨や質の高い教育が大事であるので、定員が充足されずに特色に欠ける教育とならないよう、適正な定員にしてほしい。
- ・定員を満たさないのは好ましくないが、教育効果や教員数を考えると、ある程度の

学生数は必要である。静岡県の24人では少なく、もう少し多い方が良い。

- ・農林大学校生も2学年で19名の学生が専門職大学があれば進学してみたいと回答したことから、専門職大学が設置されれば農林大学校の定員は40~50名くらいになるのではないか。
- ・定員について、県内外の学生、農家・非農家の学生など、多様な学生が入ってくるなか、学科編成、コースが重要になるのではないか。コースや学科をどれくらい作るかにもよるが、一つのコースや学科が10名程度とすれば、定員は40名程度ではないか。
- ・定員は、一定のボリュームがないと意味がないのではないか。入った学生のマンパワーは大学の特色の一つになる。ひとまとまりを40名とすると、最後まで40名を引っ張って議論して、農林大学校とトータルに定員を考えれば良いのではないか。

○教育研究の内容について

- ・カリキュラムについては、農業の現地体験をして自分でできるようになることも非常に重要だが、基礎的なことや、これから長期的にどうなるのかということを考える力を付けることも非常に重要。
- ・国際交流について、昔、農林大学校からブラジルに1年行った生徒が実習に来たが、やる気、行動、人間性等、完全に一人前の農業者であった。専門職大学の4年に加えて、希望する学生が1, 2年間、海外研修に行けるようにすると良いのではないか。
- ・教育目標に「消費マーケットを見据えた需要・市場開拓」を入れたのは良いこと。
- ・臨地実務実習について、農林大学校が行う研修は、研修先に偏りがあり、研修内容も一貫性がなく研修先に任せっぱなしである。専門職大学では偏りがなく、習熟具合も考慮し、検討していただきたい。

○施設整備について

- ・専門職大学の施設整備について、農林大学校は大変古いので、大学を新設するのであれば、農林大学校も一緒に新設できると良い。その際、県産材を使用して木造で作れたら、それも大学の特色になるのではないか。
- ・設置場所の考え方にある既存施設等の有効活用という視点も大事ではあるが、入学する学生が大学を選択する際、ハードは非常に重要な判断の一つになる。施設は新しい方が魅力的。

○県内定着に向けた学生への支援について

- ・農林業経営者の卵が、県内で活躍する場を整備していくことが非常に重要になる。県庁と県内の農林業関係団体がそういう場を一体となって整備していくことについて、専門職大学の開学に向けて平行して検討していく必要があるのではないか。それが実現できれば、山形の専門職大学の特色にもなる。
- ・県内で新規就農しやすい仕組みは大事。専門職大学に入学して学んでも、結局地元で定着できないことにならないか心配。県内全体で受入体制を整えながら大学も作っていかないと、学生が希望するところに就農できないことになる。
- ・専門職大学の4年間を終えた後も、成長の過程に応じてサポートできるようにして欲しい。

○開学の時期について

- ・実践側としては人材不足であり、人材を確保したいと思っている。できる限り早期の開学を希望する。

○大学設置運営主体について

- ・山形県は農業県なのだから、県の農林業を成長させていくという意識で、県が主体的に専門職大学に関わって行くことが大事。
- ・設置主体について、色々な選択肢の検討は良いが、卒業生へのフォローアップや試験研究機関との連携、県や国の施策の関係から、県の直営が良いと思う。

○専門職大学の特色について

- ・県内の成功している方達の事例を教える講座を設けるとよい。国内外の事例を短期集中セミナーのようなかたちで提供できると、学生だけではなくリカレントにも役立つし、大学の特色にもなる。
- ・現在ある山形大学農学部との違いが選ぶ側からすると分かりにくいのではないか。教育方針などで違いや特色をもっと出して欲しい。そうすれば進学希望者が増えるのではないか。
- ・新しく作るからこそ特色を出していけると思う。既存の大学や学部を変えるのは難しい。これは、学生、保護者、高校へアピールする上で大事になる。

○その他

- ・学部学科について、効率的な視点も大事だが、学生ファーストの視点で多様な農林業を学べる機会を提供できるようにする視点が大事。
- ・国立大学は個性や特色を出すようにと文部科学省から言われている。各大学と連携する際は、各大学の強みを活かして連携するとよい。
- ・年齢や経験など、学ぶ人の多様性があるとよい。リカレント教育や研修の場では、現役の学生と社会人が一緒に学ぶ場になるとよい。
- ・入学しようとする学生や親にとって、授業料がどのくらいなのかや奨学金がどれくらい充実しているかは極めて大きな問題であり、検討しておく必要がある。
- ・大学教育の質の保障が近年強調されている。基本計画の話になると思うが、特色を出した上で、人材育成に掲げたことがきちんとできているかチェックできるシステムを作ることも大事になる。

以上